

最高裁秘書第5337号

平成31年1月7日

林弘法律事務所

弁護士 山中 理 司 様

最高裁判所事務総長 今 崎 幸 彦



司法行政文書開示通知書

平成30年10月30日付け（同年11月1日受付，最高裁秘書第4562号）
で申出のありました司法行政文書の開示について，下記のとおり開示することとし
ましたので通知します。

記

- 1 開示する司法行政文書の名称等
司法修習生考試実施要領（片面で2枚）
- 2 開示の実施方法
写しの送付

担当課 秘書課（文書室）電話03（3264）5652（直通）

司法修習生考試実施要領

(平成12年7月12日司法修習生考試委員会可決)
(平成14年7月10日司法修習生考試委員会可決)
(平成18年9月28日司法修習生考試委員会可決)
(平成27年12月15日司法修習生考試委員会可決)
(平成29年12月12日司法修習生考試委員会可決)
(平成30年7月2日司法修習生考試委員会可決)

1 考試の対象者

考試を実施する年度において裁判所法第67条第1項の試験を受けることができる者

2 考試の方法

(1) 科目

民事裁判, 民事弁護, 刑事裁判, 刑事弁護, 檢察の5科目とする。

(2) 内容

訴訟記録に基づき, 裁判, 檢察及び弁護の立場から種々の問題を提出して答案作成を求める。

(3) 資料の貸与

委員長の定めるところにより, 答案作成のための参考資料を貸与する。

(4) 問題作成及び答案審査担当者

司法修習生考試委員会委員及び考査委員から, 委員長が科目ごとに指名した者とする。

(5) 考試の時間

各科目6時間30分とし, このうち, 答案起案を6時間25分, 答案綴り込みを5分とする。

なお, 考試時間以外に昼食時間を1時間設け, この時間中の答案起案を認める。

(6) 考試の期日及び場所

委員長の定めるところによる。

3 採点基準

(1) 採点の段階

優，良，可及び不可の4段階とし，可以上を合格，不可を不合格とする。

(2) 採点の方法

各科目ごとに当該答案審査担当者の合議により採点する。

4 合否の決定

司法修習生に関する規則第16条の定めに従い，司法研修所長が報告した修習成績と考試の結果により，当委員会において決定する。

5 不正行為

(1) 不正行為

当委員会が別に定める基準に該当する行為を不正行為とする。

(2) 不正行為の制止

試験官又は係員は，不正行為を行った者に対し，それを制止することができる。

(3) 応試中止の措置

幹事は，不正行為を行った者の応試を直ちに中止させなければ，考試の公正が確保できないと認めるときは，その者につき，当該考試日における応試を中止させることができる。

(4) 不正行為者の考試結果の効力

不正行為を行った者の考試結果の効力は，当委員会が決定する。

6 その他

1から5までに定めるもののほか，考試の実施に必要な事項は委員長が定める。